

三浦アルプス（南尾根、連絡尾根と森戸川源流を辿る）

1. 日程：2026 年 6 月 13 日（土曜日）
2. 参加者： 3 名（原田晴、原田尚、設楽）
3. コース： 逗子、風早橋から南尾根、連絡尾根、森戸川源流経由にて逗子駅戻り
逗子駅 8:30 待ち合せて⇒風早橋バス停⇒仙元山⇒ソッカ⇒観音塚⇒連絡尾根
⇒森戸川源流⇒長柄橋⇒逗子駅戻り 14:00

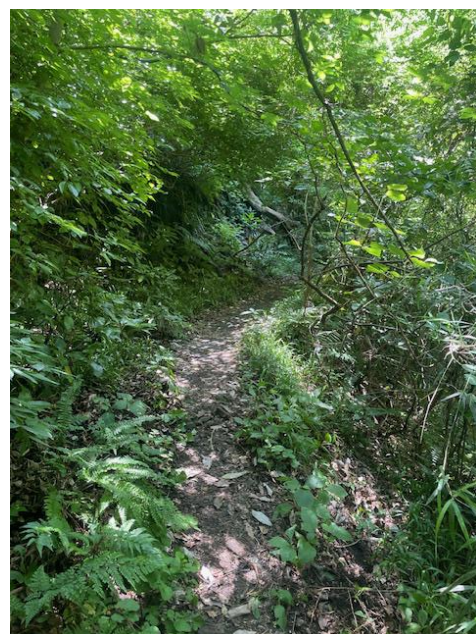
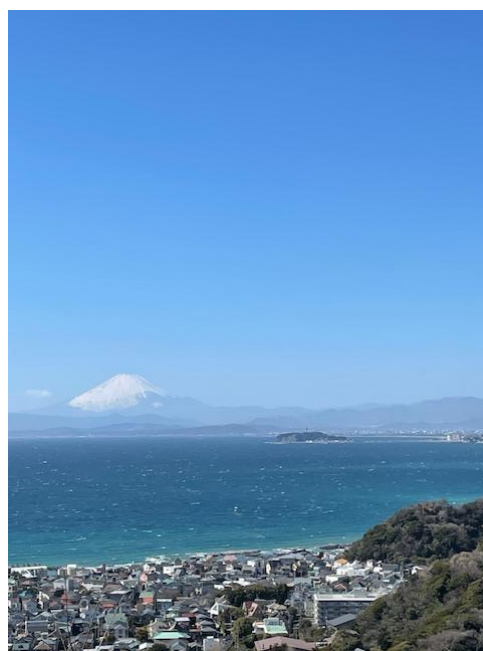
4. 山行報告

まだ暑くないと思って計画したものの、もう夏の様相だった。雨も困るが暑いのも苦手だ。来週は黒戸尾根で甲斐駒ヶ岳を上るが、天気がどうなるか少しばかり不安だ。逗子駅からバスで風早橋で下車し、いつもは坂道から教会の脇を抜けるのだが、今回は歩き出してすぐの階段をいきなり上ってスタートした。土曜日の仙元山は何組かの登山客で賑わっていたが、どんよりした空で江ノ島がかろうじて見えるものの富士山や丹沢の山々は隠れている。その先のソッカで早めの昼食をとる。山道整備で作業中のボランティアによると、三浦アルプスでも近年死亡事故が2件発生して収容のヘリコプターも飛んだという。一件が滑落、もう一件は心臓発作とのこと。乳頭山へ行くことは早々にあきらめて連絡尾根から森戸川源流へ下る。途中できくらげで出会った。場所こそ違うが三浦アルプスでは2年前もきくらげで大いに盛り上がったことを思い出す。下り終えた先の森戸川源流付近では多くのアマチュアカメラマンに遭遇した。カワセミでもいるのだろうか。重そうな機材を持ち歩いて大変そうだ。ようやく住宅街に入り、川久保付近のコンビニでアイスを補給する。駅に戻る道すがらにある陶器店にも立ち



寄ってそれぞれ好みのものを手に入れて逗子駅に戻った。南尾根を歩いているときは時々涼風があったが、一般道路は照り返して夏本番とあまり変わらない感じだ。今日の水消費量は 500ml のボトル 2 本だった。

（写真）右上：晴天時の仙元山からの富士山と江ノ島 右下：森戸川源流からの小道
左下：収穫したきくらげ



以上

日本三大急登黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳へ

1. 日程：2026 年 6 月 16 日（火曜日）～17 日（水） 一泊二日
2. 参加者： 一之瀬、石井、高橋、原田晴、原田尚、西村、大西 以上 7 名
3. コース： 尾白川溪谷駐車場から黒戸尾根で甲斐駒ヶ岳往復（標準時間）往路 8:13 復路 6:33
1 日目 尾白川溪谷駐車場 7:55⇒笹の平 10:30⇒刀利天狗⇒14:30 五合目⇒16:10 七丈小屋
2 日目 七丈小屋 4:30⇒7:05 甲斐駒ヶ岳⇒七丈小屋 9:30⇒刀利天狗⇒笹の平⇒
15:35 尾白川溪谷駐車場

4. 山行報告

昔から黒戸尾根には興味があった。以前山 girl
yu-chu-ba-の女性 K さんが登山家の花谷さんと一緒に登っ
てるのを観て私でも出来るのではと考え計画する。車二台
に分乗したが、4 人は途中で遅れること予想して少し早め
に出発したが、笹の平に着くだいぶ前に追いつかれてた。
私を除く男性は健脚ぞろいである。私は日頃の運動不足も
あり、正直大苦戦した。特に五丈小屋跡から七丈小屋まで
の鎖と梯子が続く道と八合目の御来迎場から頂上までがき
つかった。一昨年の北沢峠から同じ甲斐駒へ続く駒津峰ル
ートもシンドイ思いをしたが、黒戸尾根はそれ以上に過酷
な道のりだった。それだから余計に翌日の山頂での三百六
十度青空の中、ハヶ岳や鳳凰・地藏岳のオベリスクとその
先にある富士山、勇壮な北岳も拝められて満足した。この
コースを計画してよかったとつくづく思う。小屋番の登山
家花谷さんから七十過ぎても黒戸尾根に挑戦するという
ことは実年齢は六十代以下と言われたことが印象的だった。
もしこれが単独行なら 5 合目あたりで多分引き返したと思
うので、励ましてくれた同行の皆さんにも感謝です。あり
がとうございました。

（写真上：出発直後の元気な様子、 写真中：笹平手前で小休憩、
写真下：五合目以降に続く階段と鎖）



以下参加の皆さんからの感想を頂きました。

所感

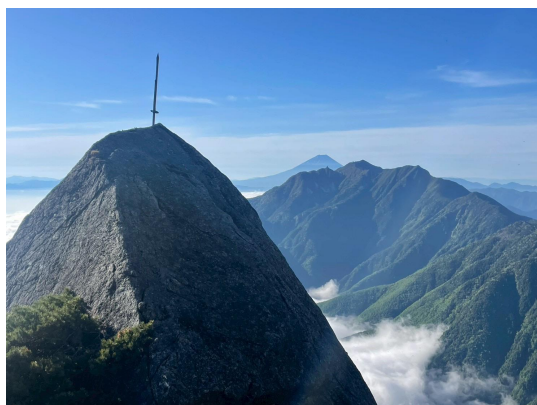
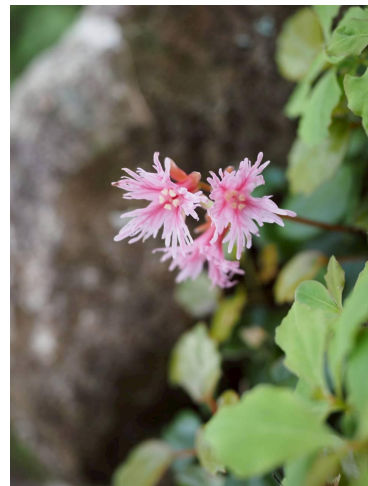
（一之瀬）40 年ぶりに甲斐駒ヶ岳に登りました。黒戸尾根、やはり厳しかったです。五丈小屋跡からの梯子、鎖の連続、七丈小屋前の急登、小屋に着いたときは心底ホッとしました。翌日の八合目、九合目の岩場の急登をやっと登り、山頂に着いたときの感動はひとしおでした。青空に浮かぶ北、南、中央アルプス、ハヶ岳、奥多摩の山々、360 度の大展望、登ったものにしか見ることで

きない絶景を堪能しました。下山路も厳しかったですが、皆さんに助けられて無事に下りられました。厳しい黒戸尾根、仲間と登れて本当によかったです。

(石井) 49年ぶりの4回目の甲斐駒、黒戸尾根を上げるのは初めてでした。五合目小屋跡までの樹林帯の中の長い道、その後のこれでもかと続く梯子と鎖の岩壁、中味の濃い山行でした。頂上からは



これ以上は望めないだろうという快晴の下、360度の山岳パノラマ、美味しい料理と花谷さんとも会えた七条小屋、素晴らしい山行でしたが、2度と同じトレースは辿らないでしょう。



(高橋) 黒戸尾根、手強かったです。自分もしんどかったけど、仲間の頑張りにおされました。黒戸尾根、みんなで登れば怖くない。2日間とも晴れて、甲斐駒山頂はすばらしかったです。また、登山家の花谷さんとも会えて、ラッキーでした。



(原田尚) 皆様にはお世話になりました、また体調が悪く、ご心配おかけしました。皆さん、素晴らしい山頂での景色、その場に行けたものの御褒美ですね。皆さんのやる気とファイトに感服です。大西さんの写真、イワカガミが群生していて本当に綺麗でした。



(西村) この上ない好天と、長すぎる登山道によって、忘れがたい山行になりました。刃渡りではそれほどでもないと思いましたが、七丈小屋から山頂までの登り・下りには参りました。そんな黒戸尾根を日帰り往復、しかもトレランという人達がいることに、健脚にもほどがあると思いました。

(大西) 恵まれた好天と素晴らしい眺望、それに達成感を上乗せしてくれた黒戸尾根。満足度が今年一と言っても良い山行でした。

(写真 右上：大西さん撮影のイワカガミ、右中：甲斐駒ヶ岳山頂、左上：七条小屋で小屋の主人と、左中：鳳凰、富士山と剣、左下：イワウメ)

以上